東由利村報

No. 145　1969・8・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）　昭和42年7月21日第三種郵便物認可

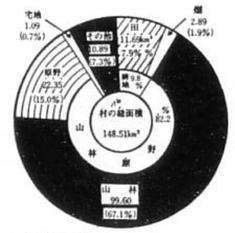
世帯と人口

世帯数	1,598世帯
人口	7,509人
男	3,702人
女	3,807人

前月に比し世帯は3の減
人口は8の減

財政

一般会計	304,029千円
特別会計	57,349千円
内訳 国保	55,068千円
内訳 黒診	799千円
内訳 簡水	939千円
内訳 玉財	543千円



知識を拓く場せばまる

□□第14回畜産共進会□□

飼育増したが出陳は減少

▼本村の第14回畜産共進会は7月1日、台山馬検場に村内の飼育農家が▽つめかけて開かれた。しかしこしの出陳頭数は少なく、ジャージー乳△牛八頭、ホルスタイン乳牛九頭、肉用牛一五頭計三二頭で、昨年の五三▽頭を大きく下回った。このため来年からの開催には、いま一つの研究が△▼待たれるし、と同時に内容を検討し直す時期を告げているかのようだ。▲

畜産共進会のねらいは一口に言って、日ごろ丹精の出陳者はもちろん、出陳できなかった飼育農家も共に一場に会して、どうしたらよい畜産が出来るかを研究し合える絶好の機会である。

しかし、出陳頭数は年々減少しており、反面、本村の畜産を支える牛の飼育数は年ごとに増加しているのである。ちなみにことしの村内の飼育数は和牛一、〇九三頭、ジャージー乳牛二五九頭、ホルスタイン乳牛一〇八頭、合わせて一、四六〇頭となっている。

放牧場を活用して粗飼料給与がコツ

審査講評によると、①ジャージー乳牛は一般に品位、資質に優れているが、中には体積不足のものもある。これらは粗飼料中心で順調な発育をはかるべきであり、ホルスタイン乳牛は体積、品位とも、まことに充実しておらず活気がある。ただ肢の弱さが個体解説、飼育農家がいちばん知りたい〝飼育のコツ〟が解き明かされて行く。

（乳房附着）に問題があり、これまた放牧場の利用がのぞまれる。③肉牛は体型、資質ともに発育が標準以上が大部分を占めている。ただ一部に草不足が災いして過脂の牛もあるので改良をのぞみたい。

また、出陳された牛はすべてが三等賞以内に入賞をし、関係団体などから盛りだくさんの賞品を授与された。

▽和牛＝（12～20カ月）一等賞一席　館合新田　畑山喜一郎。同二席　宿　小野長兵衛。（20カ月以上）一等賞　葹沢佐藤菊蔵。

▽ジャージー乳牛＝一等賞一席　宮ノ前　阿部豊美。同二席　蔵新田　遠藤道吉。

▽ホルスタイン乳牛＝（10～20カ月）一等賞　館合新田　小野長一郎。（20カ月以上）一等賞　上里　小野勝造。

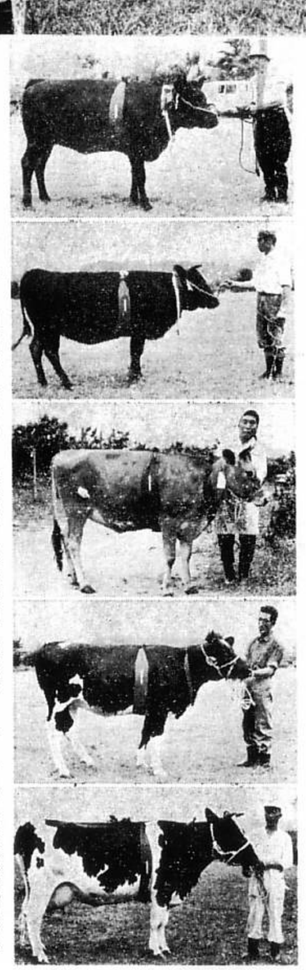
▽団体賞＝肉用牛　田代、黒淵。ジャージー乳牛　蔵、法内。ホルスタイン乳牛　老方

今後への足がかり

出陳数が少ないことのみを取り上げて、あたかも共進会が不振である、とばかりは言えないまでも、飼育農家がお互いに知識をひらき合う場がせばめられたことは確かである。

なぜ振わなかったかを誰彼を問わずに聞いてみた。①単に生き物が好きなだけでは食って行けない。②田んぼからの帰路に草を刈って、という少頭飼育であればこそ成り立つ畜産である。③かつての〝殿さま農業〟と違い、ギリギリの労働力を営農に向け、できるだけの余剰労働力は手っとり早くソロバンが合う他の仕事にふりむけているので、共進会用の時間がない。④共進会の効用を全村的に広めたいならば〝ふすま〟の一～二俵も参加賞にしたらどうか。

写真は審査を待つ…畜産共進会で



【写真】上から一等賞受賞の畑山喜一郎　佐藤菊蔵　阿部豊美　小野長一郎　小野勝造の各氏と出陳牛。なお畑山喜一郎氏は郡共で優等賞一席。

国道をまくらに

本村内でもこのところ交通事故が多発している。

7月12日早朝には、わら沢地内で居眠り運転と見られるハンドルの切りそこねで、国道をマクラに大型トラックが反転。また20日の日曜日には海水浴帰りの乗用車が、老方泉秀寺前のカーブでスピードを出しすぎて他車に衝突。21日には小型トラックが坂戸地内で暴走運転で国道外に転落、助手席の乗員が重傷を負っている。

酒酔い運転はみんなの監視でなくなる。過労時の運転はさけるなど、一人一人が事故を防ぐ強い心構えが大切だ。【写真は、反転した大型トラック】

和牛で優等一席

郡市共進会

家畜群は県共レベル

第五回由利畜産共進会は7月16日、本荘市石脇の由利畜連構内に、本荘市由利郡内各市町村から選びぬかれた和牛三六頭、乳牛ホルスタイン二一頭、乳牛ジャージー一一頭豚八頭、計七六頭が参加して開かれた。

これには本村から和牛五、乳牛のホルスタイン二、ジャージー一頭が出陳、優等賞一席をはじめ全部が入賞した。

この日の各出陳家畜は、それぞれ優れたものばかりであり、数年前の県共進会のレベルに等しいと参加者や審査員の目を見張らせた。

また、上位入賞牛の個体解説は各専門審査員が、入賞の根拠を分析して説明するなど圧巻であった。

▽和牛＝優等賞一席　館合新田　畑山喜一郎。一等賞二席　蔵新田　遠藤道吉。同三席　黒淵　佐藤菊蔵。▽乳牛＝ホルスタイン一等賞四席　上里　小野勝造＝以下省略。

牛、人工授精に革命

牛の人工授精が新しい方法を併用している。

従来、人工授精用に使っていた精液は液状であったため保存期間が短く、他県から優良精液を導入したいにも保存に障害があって、思うにまかせなかった。

しかし現在併用している凍結精液は、精液を凍結して運搬できるので、保存は半ば永久的という優れた特性を持っており、今後、国内外を問わず優良精液がどしどし導入できるというものである。

本村の伊東、佐藤二人の人工授精師は、目下技術をマスターすることに懸命であり、また、これまでのような、精液が品切れなので、という不便はかけなくともよくなる手管が整ったわけである。

夏！水死事故を追放しよう

川をきれいに

水泳のシーズンですが川が汚されて困っています。

ことに製材所のオガクズ、豆ふのカスが捨てられており悪臭を発しております。

また、ガラスなど危険物も少なくありませんので村内の方々の協力で、川をきれいにしたいところです。

また、川へのゴミ捨ては、路肩を覆い路肩がふけて決壊をよぶ原因にもなります。

助産、葬祭給付を増額

村々入り会い整備費も

東由利中学校新築第一期工事の請負契約は、6月30日、浅沼組と仮調印したが、議会の議決を経て正式契約を結ぶ必要から、7月9日第四回東由利村議会臨時会を招集、このほか四件の議案を可決した。

▼中学校新築工事の請負契約金額七千二百五十万円、契約の相手方、秋田市山王、KK浅沼組秋田営業所（所長、加賀屋敬吉、本社、大阪市）

▼村長が専決処分できる事項指定。中学校第一期工事の中で、設計変更などによる請負金額の一〇㌫以内での予算補正

▼国民健康保険条例の一部改正。助産費（お産見舞金）と葬祭費（死亡見舞金）をそれぞれ現行の二千円から三千円に増額した（44年4月1日から適用）

▼財産の取得一、六六九平方㍍（一反六畝二五歩）を中学校敷地用に追加、相手方は畑山喜一郎、九一平方㍍（一反歩）あたり十八万円。

▼44年度一般会計の補正予算（二回目）。七十一万二千円を追加して総額を三億四百二万九千円とした。内容は▽複数の入り会い地に複数の部落住民が相い入り会い、行なっているところを、作業能率がよるように〝村々入り会い整備促進事業〟に三十三万一千円。▽本荘高校下郷分校用グランド整備（幅八〇㍍長さ一二〇㍍）に五十万円、同分校前庭整備に十万円。これは目的を明確にするねらいで中学校建設費から教育助成費に予算項目を変更したものである。

【写真説明】東由利中学校新築第一期工事の起工式は7月9日現地で行なわれた。鍬を入れる小松村長。

下郷分校二期工事はじまる

村では前庭整備など

容が完成する。

二期工事の内容は、特別教室として図書兼芸術室・理科準備室・理科室・和裁室・洋裁室・調理室である。

また管理棟としては職員室・応接室・教員室などがあり新校舎での授業が正常な姿で行なわれる日が待たれている。

なお、この校舎本体の二期工事は千二百四十万円の県工事として吉野建設＝本荘市、に落札、昨年に引き続き施工している。このほか電気、給排水などの附帯工事は別個に行なわれる。

家庭科が充実

同下郷分校の家庭科がグンと充実する。

これは産業教育振興法に基づく家庭科教具の設備費であり、これまでの設備費の中では最高額の百五万円が決定した。同分校ではさっそく家庭用ジグザグミシン三台、改善台所一基、レンジ一台、調理台四基などを発注、これでまずまずの家庭実習機具は揃うと、大よろこびである。

なおこのほか、一般教具の充実費三十万円があり、これは理科実験台などの理科室の充実にあてたいと言っている。

進むグランド整備

村の明日をになう若ものたちの学び舎である下郷分校だけに、本村としてもできる限りの力を注いでおり、いま幅八〇㍍、長さ一二〇㍍のグランドと校舎前庭の整備（バレーボールコート一面、バスケットボールコート一面、テニスコート二面を予定）に大わわ、これによって若い群像が伸び伸びと学べる、長い間の夢が現実のものとして日一日と近ずいている。

慰霊祭は21日に

昭和44年の戦没者慰霊祭は8月21日午前一〇時から本村蔵、蔵立寺で行なわれます。

一般の方のご焼香をおすすめします。

昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利村報

昭和44年8月1日　第145号

われらの手で新農業
むすめにも夢を　女子青年は訴える
農近ゼミ2つの集い

本村農業近代化ゼミナール全体活動の一つである技術交換大会が、村農近ゼミ・本村教委・本村公民館が共催して7月19日玉米小学校で開かれた。これは村内の農近ゼミ研修生が一堂に会して親睦を深めながら、日頃の学習や実践活動で得た技術を交流し、これからの新しい農業を開拓すると共にゆたかな村を築く一助にしようとして開かれたもので、この日は村内からはつらつとした男女青年五〇人が参加、競技に講演にレクリエーションにと活気に満ちた一日を送った。

まず技術競技と常識テストは、稲作・園芸・畜産・菓樹・生活など全般をとおし農業人として当然もっていなければならない技術競技を行なった。そして採点の結果、つぎの成績優秀者を表彰した。①鈴木功一②佐々木伯漠②大庭敏昭‖以上宿学習団。③大友喜恵子③小松トキ子‖以上生活学習団。ついで玉米小学校教頭の田口二郎先生が奏るアコーデイオンにのせて、チエコ民謡キャンプの夜ほか数曲の歌唱指導があった。

村づくりは一人一人が実践の上に
「村の農業の現状と問題点」の解説が伊東助役からあった後、研修生たちから活発な意見が提示された。

①時代の流れに即応した経営をしなければ、安定した農業は期待できないので、稲作に加えた畜産などの複合経営を積極的にする必要に迫られている。②畜産では草地造成が急務であり、もっと農民自身も真に自己の問題として努力の要があるし、基盤整備という点では村はさらに力点をおいてほしい。③村づくりは村当局でやることでなく、各々が見えていること。こんな意識では限界が見えている。文化・経済各般に、もっと村民一人一人が主体性のある考えを持ち実践する必要がある。④女子青年からは、婦人労働の軽減にもっと真剣に取組まないと、若い娘が夢を失いまよ、と関心を訴えていた。

国際経済と切り離せない農業
このあと「農業政策の展望」と題してサンケイ新聞秋田支局長、有光貉民氏が講演、▽農政はゆらいでいると言われるが、必ずしもそうではなく農業基本法の精神を基調にしている。▽稲作では農民は一年に一回の収穫であり、六〇年の人生とすれば六〇回の収穫という、ともすれば保守的になり勝ちな要素が多い。しかし国際経済の動向も無視できないので、一日も早く農業が主体性を持った経営に体質改善をして行かねばならないなどを骨子に、農業青年の意識が、今日ほど期待される社会はないことを語りかけ感動を呼んだ。なお、村内で活動中の単位学習団は住吉・玉米・法内・宿・女子である。

下郷校舎は陸上
2選手大会新で優勝

▷田口先生から歌唱指導をうける研修生たち
……【写真説明】……
準決勝は矢島と対戦、玉米校舎、菊地京子選手がシュート。下、王刀メンバー

農家生活をよりよく
女子青年ゼミが発足

村に住み農業に従事している女子青年たちが、農家生活をよりよくする勉強をしようと〝農業近代化ゼミナール生活学習団〟をつくった。

その第一回目の勉強会は7月10日役場で開かれたが、この日は本荘農業改良普及所技師の植田剛氏を囲み、本県での野菜の自給率は約三割であるところから、①秋野菜のつくり方②食生活を合理化するために、野菜の三冠王と呼ばれるにんじん、トウガラシの葉、シソの葉の栽培③野菜栽培の基礎になる作物の生理と土壌、肥料、病害虫、ホルモン剤の利用などを勉強し合った。

なお今後は、構成員一人一人が年間を通してのテーマを設定して勉強するかたわら、四季折々の快適な作業着、農夫症などの健康管理と婦人衛生のこと、女性の作法、住みやすく使いやすい農家の改善自家生産物を使った料理教室わかりやすく記帳しやすい家計簿のつけ方などを、みっちり勉強して行くことになったゼミの構成員は現在約二〇人であるが、まだまだ仲間をふやしたいと、本村公民館では加入の呼びかけをしている。

女子バスケット　全市郡で輝く優勝
玉米校舎が中学総体で

本荘市由利郡中学校総合体育大会は7月5・6日本荘市で開かれたが、これに出場した東由利中学校と対戦、45対12で圧勝。6日の準決勝戦は矢島中学校を40対20でしりぞけ本荘北中学校との決勝戦に駒を進め北中を44対28で降した。

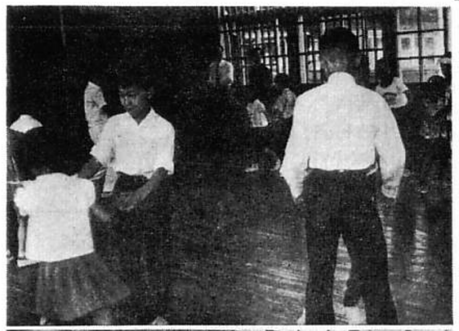
同校舎はここ二、三年優勝候補の筆頭と内外から称される実力を持ちながら、ここ一番の戦いになると精神面の〝もろさ〟を露呈、持てる力を存分に出しきれないうらみがあった。

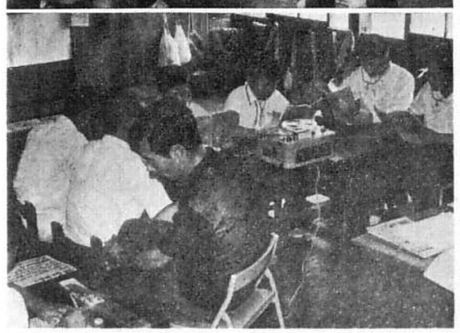
そこで小松監督としては、試合にのぞんでコチコチにならないよう、充実した練習試合をとおし自信を持たせることに専念したと同時に、学校側では、これまでのクラブ活動のあり方を反省、全校二三八人と少数の在籍生徒であるクラブが乱立するので、運動クラブが出来あがらないもろさ〟を露呈、持てる力を存分に出しきれないうらみがあった。

そこで小松監督としては、試合にのぞんでコチコチにならないよう、充実した練習試合をとおし自信を持たせることに専念したと同時に、学校側では、これまでのクラブ活動のあり方を反省、全校二三八人と少数の在籍生徒であるクラブが乱立するので、運動クラブが出来あがらないもろさ〟を露呈、持てる力を存分に出しきれないうらみがあった。

あすから秋田博
子どもたちの計画により校庭の雑草取りがなされることも、光る床の清掃にはげむ姿とさらに、私たちの学校を草のない花のある学校にとする心を育て大切にしなければならないと思っています。朝元気な登校の子どもたちに校庭に一日中元気な姿を見せている子どもたちです温順だが刺激のないせまい環境限られた人数の友人関係の中の複式学級の一人ひとりの子どもを、どのようにして伸ばして行くかという、私たちの願いを知らなくても袖山の子どもたちは、与えられた仕事、自分たちできめた作業、学習に黙々としてやりとおす根気強い長所が見られます。

月、土曜の全校集会、火曜の全校歌唱に心と声を一つにして歌うこともたち、水曜の全校リズム体育に楽しい中に健康で明るい子どもたちの元気な明るい声晴々とした動きの姿、兄姉父母と集まった笑顔の中に心からの幸せを感じる一日でした。昨年もそして今年も予算とPTAの作業による整備された校庭も、きれいな光る校舎





国道一〇七号線より軽井沢線基幹林道を四㌔、標高一三五㍍の地点に平屋建五一八平方㍍の校舎に、複式三学級これが私たちの学校です。

今年もこの学校を中心に中学生や青年会、婦人会PTAなどの協力により袖山小学校家族運動会が四月二十九日のよき日、桜花咲き初めうぐいすの声きく狭いながらも整備された校庭で盛大に行なわれました。子

一日を楽しい学校に
課題、複式下どうしたら

寄稿
袖山小学校長
斎藤　周治氏

ちが見えて来た、その中には四㌔も遠い大きな峠を越して来た子どもたちもいる「お早うございます」の声々その声に今日の一日も楽しい学校にしてやらなければならないと、子どもの顔を見る、下校のベルまで教室に音楽室に図書室の床も……父母よりそして兄姉そして現在にと受けつがれ、もたち、木曜の全校器楽合奏にも一人ひとりが、その一員であることを自覚し協調して小人数学校での不足しているものを育て伸ばそうとしています。こうして袖山教育の特色を年を追って実のあるものにして行きたいと考えています。今日もまた山の道を帰って行く姿に健康で人間性豊かな人間に生長するよう願うのです。【写真】上、全校二四人のリズムダンス。下、複式授業ではテープレコーダーも先生。

村民体育大会
8月30日に

8月30日午前八時三〇分から台山グランドで本村教育委員会・本村公民館主催による「村民体育大会」が開かれる内容は▽村民体操▽家庭バレーボール‖①分館から二チームが出場する八人制部落対抗②分館から一チームが地域内の四一才以上の住民が混成による八人制対抗試合③分館から一チーム出場の地域内住民混成による夫婦チーム対抗（八人制）④六人制職場対抗▼網引き‖分館地域内で混成男女とも一五人ずつ三〇人で一チーム▼フォークダンス‖当日新種目を紹介▼リレー‖①男子八〇〇㍍リレー（分館から一チーム四人）②女子四〇〇㍍リレー（分館から一チーム四人）③職場対抗男子四〇〇㍍リレー（一チーム四人）④職場対抗女子四〇〇㍍リレー（一チーム四人）。

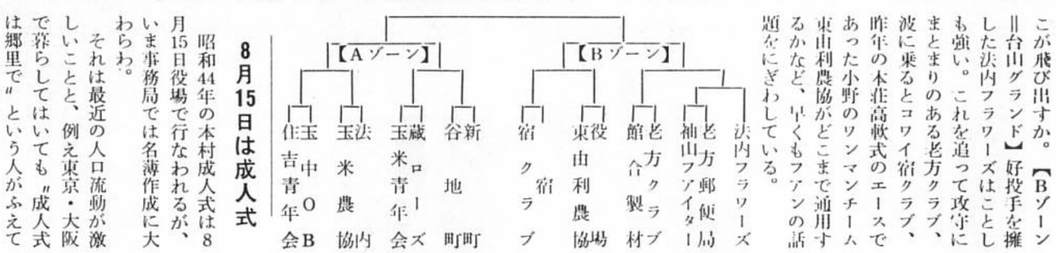
ことしは昨年の反省にたって、できるだけ多くの村民が参加できるようにと、出場は一人一種目に限定するほか、プログラムの流れをスピーデーにするよう検討されている

村社会人野球
組合わせきまる

夏の球宴、第一回本村社会人野球大会は8月16、17の両日、台山グランドと東中玉米校舎グランドを会場に、村の若人二三〇人一七チームが参加して熱戦が繰り広げられる。抽せん会は7月21日午後から役場で開かれたが、まず前年優勝の法内フラワーズと準優勝の新町をシード、その結果つぎのとおり決定した。

過去一〇回の大会は台山グランドを二分、二つの球場を設営して行なわれていたが、出場選手は年ごとに技術が向上しており、今大会からは広い球場で伸び伸びと行なわれることになった

【Aゾーン‖玉米校舎】チームワークがよく野性味ゆたかな新町チーム、各選手の力に調和のある蔵ローズ、野球を知っていることでは参加随一の玉中OBあたりからどこが飛び出すか。【Bゾーン‖台山グランド】好投手を擁した法内フラワーズはことしも強い。これを追って攻守にまとまりのある老方クラブ、波に乗るとコワイ宿クラブ、昨年の本荘高軟式のエースであった小野のワンマンチーム東由利農協がどこまで通用するかなど、早くもファンの話題をにぎわしている。



8月15日は成人式

昭和44年の本村成人式は8月15日役場で行なわれるが、いま事務局では名簿作成に大わらわ。

それは最近の人口流動が激しいことと、例え東京・大阪で暮らしてはいても〝成人式は郷里で〟という人がふえてきたためだ。

昭和23年4月2日から24年4月1日までの間に生まれた方は該当するので、村外在住の方で希望の方は本村教育委員会へ至急連絡を。

▽今月の納税　△村県民税　第二期

水銀灯おくられる

東北電力本荘営業所からこのほど、地域に密着したサービスの一環にと、本村蔵地区の高瀬川橋わき（通称、土門の橋）に水銀灯一基が寄贈架設された。同個所は蔵から横渡への、人通りがある割には川音と暗い堀割に加え、街灯設備がなく、夜のおつかいは気味が悪いと敬遠されがちであったため点灯は地域の人々に喜ばれている。